

へき地・複式教育と地域づくりを考えるフォーラムの実施

— 学校と地域がともに育つ学びの場を目指して —

三重大学教育学部教職大学院 へき地複式教育研究ゼミ

Keywords : 地域連携、複式教育、小規模校

はじめに

- これまで離島やへき地に多かった複式学級は、近年では人口規模の大きな地域にも広がりつつある。
- 多くの自治体で学校再編計画が進められており、教育の持続可能性が課題となっている。

⇒ 異年齢の学び・地域との密接な関わりなど、へき地・複式校ならではの教育的価値も見直されている。

この価値を現場で確かめ、対話を重ねて、複式教育と地域づくりの可能性を探りたい

本実践のねらい

- へき地・複式校の教育的価値や課題を現地で学び、共有する。
- 大学院生、学校関係者（教員・出版関係）、地域関係者が対話・交流を通して、協働のあり方を考える。
- 複式教育を通して、学校と地域がともに子どもたちの学びを支えるしくみを探る。

フォーラムの概要

参加者

校長 3名（小学校 2名、中学校 1名）

大学院生 2名

地域関係者 10名

学校関係者 2名

実施日、場所

2025年10月31日（金）
鳥羽市立菅島小学校

構成

- 複式授業参観（5.6年 算数）
- 参加者交流会

テーマ

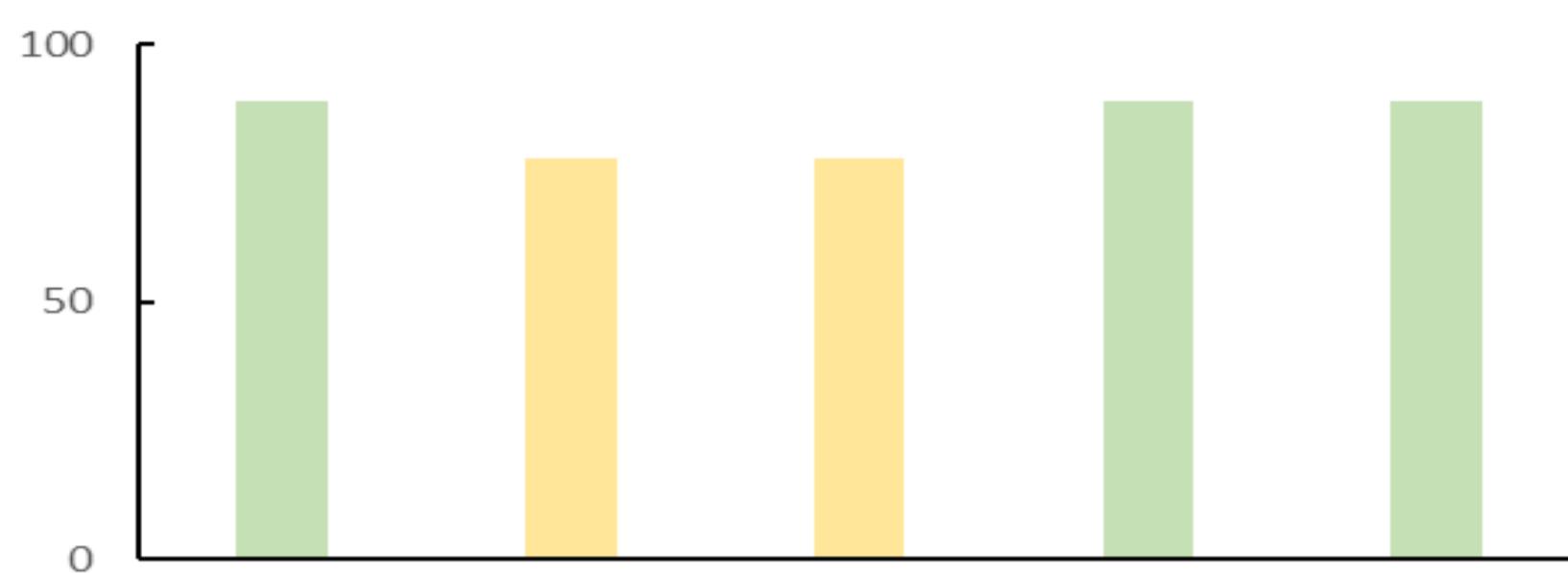
- 地域に根差した学びの可能性
- 学校と地域の協働
- 地域の未来と学校のかたち



評価

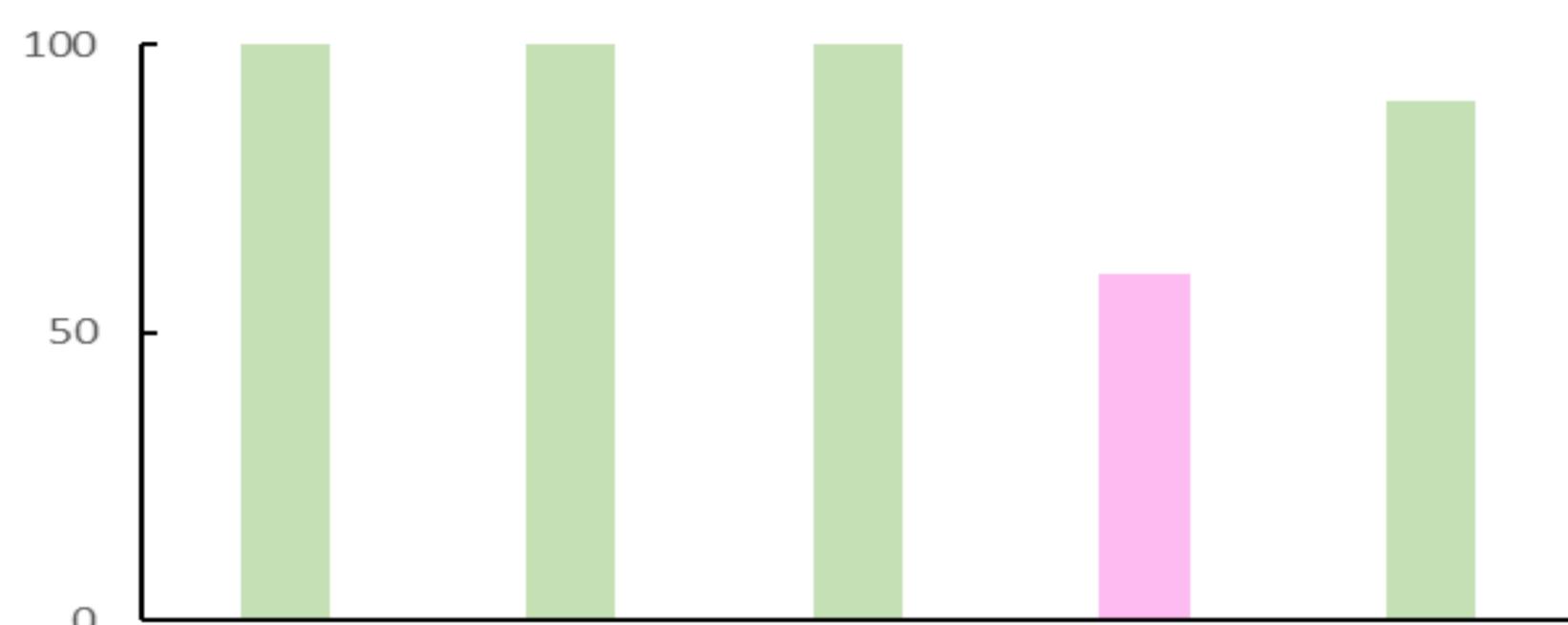
◎選択式アンケートを実施

1. フォーラムの内容・学びに関する評価



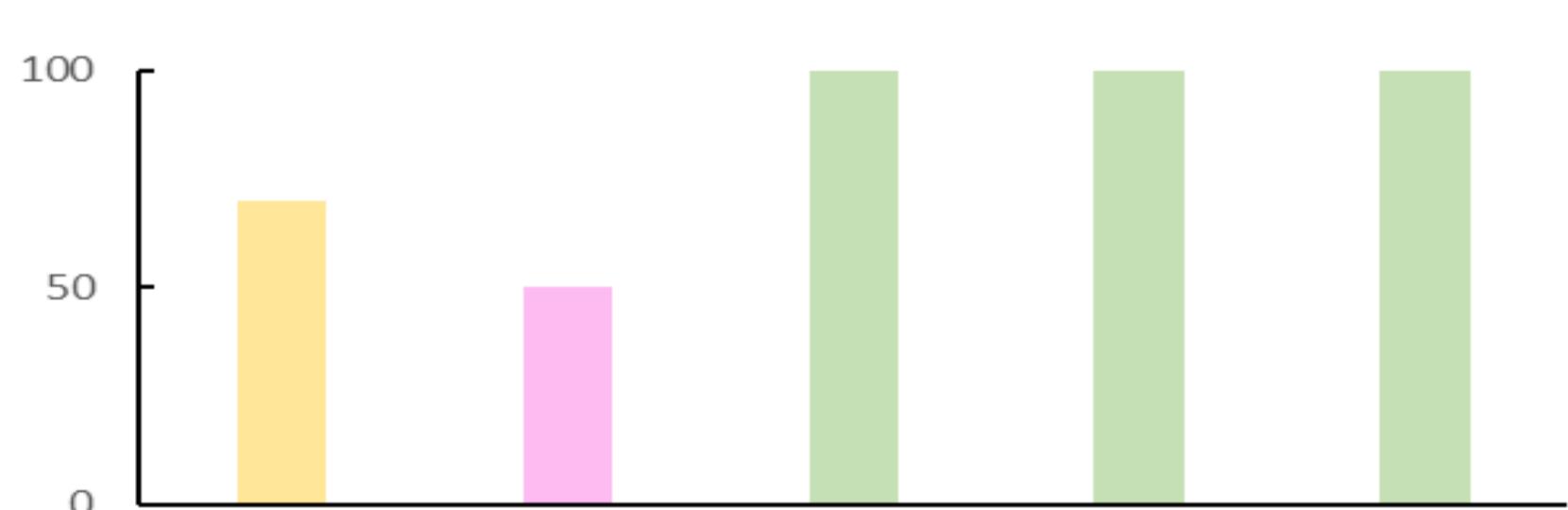
（左から）内容の分かりやすさ、テーマへの関心、実践への参考度、地域と学校の関係への新しい視点、他地域の取り組みの理解

2. 交流・対話の場としての評価



（左から）話し合いの雰囲気、意見の話しやすさ、他の立場の人の話を聞く機会、全体の進行の良さ、つながりの実感

3. 今後の意欲・展望に関する項目



（左から）今後も参加したい、自分の地域でも取り組みたい、協働の大切さの再認識、地域教育への自分の関わりを考えたい、交流継続の意義を感じた

◎参加者の声

「参加者がテーマに対して大変前向きで、話し合いがしやすい」
「複式で授業するには、タイムマネジメントが欠かせないと思った。経験者ならまだ教室内を見て臨機応変に対応できるが、新規採用の先生には大変だと感じた」
「ワークショップの時間設定が、少し短かった」

考察・今後の展望

- 本フォーラムの開催は初の試みであり、準備段階では運営・テーマ設定・時間配分に難しさがあった
- しかし、アンケート結果より、多くの参加者が「満足」「学びがあった」と回答しており、企画自体の価値と意義が確認できた
- 参加者は、立場（地域住民・教育関係者・出版・大学院生）、年齢が多様であったにもかかわらず、「自分たちの地域の学校をより良くしたい」という共通の願いを軸に話し合いが進んだことで、対話の質が高まり、交流の場として良好な雰囲気が形成された

- 複式授業の参観では、参加者から「タイムマネジメントや授業デザインは初任者には困難が大きい」という意見が出され、複式教育の課題と支援体制の必要性が再認識された（※これは複式授業を実施するにあたって「初任者の困難感」が今後の研究課題になり得ることを示唆する）
- 今後は、このフォーラムを単発の企画で終えるのではなく、参加者同士が継続的につながり、実践を交流・共有し合う仕組みづくりが求められる。こうした継続的なつながりが構築されることで、複式教育と地域づくりをめぐる知見や実践が蓄積され、参加者一人ひとりが「学びの当事者」として関わり続けられる土壌が生まれる。それにより、学校が地域に開かれ、地域が学校を支え、ともに未来を描いていくという、持続可能な地域教育の姿へと発展していくことが期待される。